

「いないのではなくて 気づいていないだけ」

当事者の思い

居場所がない寂しさ

OVER THE RAINBOW 代表

あらまき あきら
荒牧 明楽



「女子はサッカー一部に入れないよ」。同級生から女子と扱われることが嫌でした。なぜ、自分が女の子なのか。理由がわからないモヤモヤをずっと抱えながら、人と違うことで孤立感を感じ、苦しんだ小学生時代でした。男子と遊ぶのが楽しく、一緒にいるだけなのに、友達から冷やかされたり、からかわれたり。高学年になると、少しずつ体が丸みを帯び、生理が始まると、女性であることを自覚せざるを得ない状況に。周りから受け入れられず、ただ居場所がない寂しさでいっぱいでした。

中学生になると制服もあり、男女がはっきり分けられます。自分の性別に違和感を感じていても、子どもながらに、自我を出す周囲との関係がこじれると分かっていました。「もう、自分らしく生きることはできないんだ。女の子として、生きていくしかないんだ」と、決心しました。ひたすら周りに合わせていましたね。

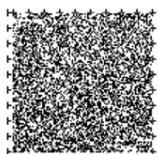
話してくれてありがとう

高校生の時、テレビドラマ「金八先生」を見て「性同一性障害」という情報を知りました。自分の中にスッと入ってきたのを覚えています。ただ「どうして今なんだ。女として生きると決めたのに」という葛藤とストレスに襲われました。悩み抜いた結果、友人にカミングアウトすることを決意。でも、いざ話すとすると、体が震え、声が出ず、涙があふれ出ました。何時間もかけてやっと出た一言に、友人は「話してくれてありがとう。荒牧は荒牧だよ」と言ってくれて、その言葉に救われました。

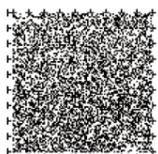
判断ではなく違いの想像を

性は、男性と女性の2択に分けられがちです。しかし、性は身体の特徴から判断される「戸籍上の性」だけではなく、「心の性」、「好きになる性」、「表現する性」など4つの要素で構成されます。組み合わせ方は、人それぞれ。性には多様性があることを正しく理解してください。強制されたり、奪われたりするものではありません。LGBTQの人が、周りにいないのではなく、気づいて

いないだけ。思い込みで判断せず、違いを想像してください。そこから、多様な性を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会の第一歩が始まると信じています。



おんせい
音声①



おんせい
音声②

多様な性を認め合う

性に関する人権問題は他の人権問題と同様に、全ての人の身近にあり、自分に関係のあることなのです。



くろめ しないうこう ねんせい さくひん ねんどじんけんさくひんしゅう
久留米市内 高校2年生の作品 (2020年度人権作品集より)

多様な人たちが出会い、気づき、考え、つながることで、それぞれの違いを理解していくことができます。私たち一人ひとりが多様な性を認め合うことが、互いを尊重し合っで共生する社会へとつながります。

誰もが自分らしく、安心して生きることのできる社会をつくっていきましょう!

